

3. 賑わいづくりに向けた課題

高田地域のまちなかにおける賑わいづくりに向けた課題を項目ごとに整理します。

(1) 人づくり

- 少子高齢化が進み、往来する人が減り、若い世代も少なく、飲食店や日常生活に必要なサービス等の店舗が姿を消しています。

賑わいをもたらすには、新たな発想や人材が不可欠であることから、新しいチャレンジを応援する気運や仕組みづくり、次世代の活躍する場づくり、さらに、外部の人や近隣地域と積極的に交流と連携を図っていく必要があります。

(2) 場づくり

- マルシェなどの非日常的な賑わいづくりを継続かつ発展させるとともに、町民が日常的に集える場が必要とされています。
- 町民が望む居心地の良い場所をつくるには、町民のまちづくりへの積極的な参加を促す必要があります。
- 子どもたちの居場所、特に高校生が放課後に安全に過ごせる場所が必要とされています。次世代を担う子どもたちが活躍できる機会を提供することも必要です。

(3) 空間的な工夫

- 商店街に空き家及び空き店舗等が多く、また主要な拠点が点在しているため、空間的に寂しく感じられることから、空き家及び空き店舗等の賑わい拠点への活用や、これら拠点間の回遊を促すなどの対応が課題となっています。
- 特に、店舗と住居が一体となっており、部分的な貸出や転用が容易ではないことから、活用しやすくするための仕組みづくりを検討する必要があります。

(4) 地域資源を活かす

- 高田地域に所縁のある歴史的な資源や伊佐須美神社の参拝客のまちなかへの回遊を促すための情報提供や滞在したくなる環境整備、まちなかの魅力づくりなどが必要とされています。
- 高田地域の自慢の農産物や特産品を介して経済循環や住民と観光客の交流が生まれる場所が求められています。

(5) 継続的に賑わいづくりを推進する体制づくり

- まちなかの賑わいづくり活動を継続し、効果を生むためには、多様な関係者による話し合いや進捗管理など、改善しながら事業を推進する体制とその人材が必要です。
- 民間による主体的で自立的な活動を行政が支援する必要があります。
- 社会情勢を踏まえた事業の選択と集中や、社会的な状況を踏まえた環境面への配慮や防災面への対応が必要です。

第4章 目指す姿と賑わいづくりの方向性

1. 高田地域中心市街地の目指す姿

令和5年度にとりまとめたビジョンの方針は、町民の想いを集約したものであり、これに観光客の視点も盛り込み、将来像を設定し、町民が「ここに住んで良かった」と思えるまちを実現し、住民満足度の向上につなげます。

また、これまでのワークショップやアンケートの結果を分析すると、出会いや住民同士の繋がりが求められていることから、賑わいづくりのコンセプトを以下の通り設定します。

【目指すまちの姿】

- 全世代、居心地のよいサードプレイス
- 住んでいる人が生き生きと楽しんでいるまち
- 家族や友人と思い出をつくるまち
- 訪れる観光客も楽しめるまち

【コンセプト】 「出会えるまち、高田」

(あの人に会える、新しい出会いがある、会津文化発祥の地)

2. 数値目標

上記の「目指すまちの姿」を実現するため、以下の数値目標を設定します。

表6 数値目標

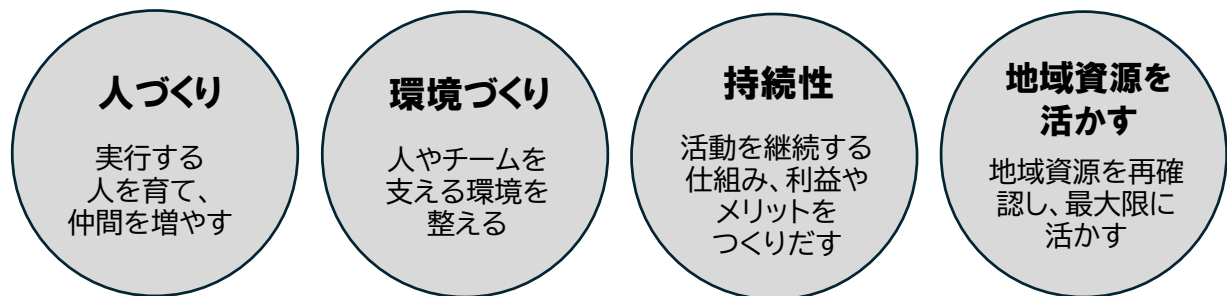
指標	定義	現状（令和6年）	令和11年	令和16年
イベント開催回数 /年	・美里蔵周辺においてマルシェ等民間が運営するイベントの年間の開催回数（地域の賑わいやまちづくりに寄与するもの。政治と宗教は除く。） ・主催者が異なるものは同日開催でもそれぞれを1カウントとする。	2回	4回	6回
新規出店数 （累計）	・美里蔵周辺に新規出店する店舗や事務所等の年間の件数（チャレンジショップ含む）	0件	2件	4件
歩行者通行量	・美里蔵周辺における歩行者通行量 ※高田インフォメーションセンター利用者数より設定。	16人/日※	20人/日	24人/日
	・イベント開催時の通行量 ※マルシェ入込数の合計	6,000人/年※	7,500人/年	9,000人/年

3. 計画の理念

「目指すまちの姿」を実現するため、次の4点を念頭に、行政と民間が連携しながら施策を推進します。

- 人づくり : まちづくりは人づくりと考えますので、まちなかで活動する人を育てると共に、賑わいづくりに関わる内外の仲間を増やしていきます。
- 環境づくり : プレイヤーがやりたいことをやり、おもいきり活動できるよう、活動を促し、支える環境を整えます。
- 持続性 : 利益やメリットの視点も踏まえ、これらの活動が自立し、継続する仕組みをつくります。
- 地域資源を活かす : 人材や歴史、生活文化等の地域資源を再確認し、最大限に活かすことにより、マルシェなど新しい高田らしさを生み出すと共に、アイデンティティ（地域への帰属意識）を育てます。

図13 計画の理念



4. 重点エリア

町内外から多く訪れる伊佐須美神社のポテンシャルや、既存の拠点施設の集積状況を踏まえ、「伊佐須美神社周辺から美里蔵周辺」を中心に各施策を進め、資源や人材活用の効率化を図ると共に、町民にわかりやすく、参加しやすいものとします。



美里蔵周辺

第5章 賑わいづくり方針

1. エリア別の方針

令和5年度の検討結果及び、アンケートや令和6年度のワークショップの結果を踏まえ、賑わいづくりに向けて、3つのエリア別の方針を示し、一体的な整備をします。

なお、エリア別方針に記載した取組内容については、P23以降の「第6章施策の体系と個別の取組内容」において整理します。

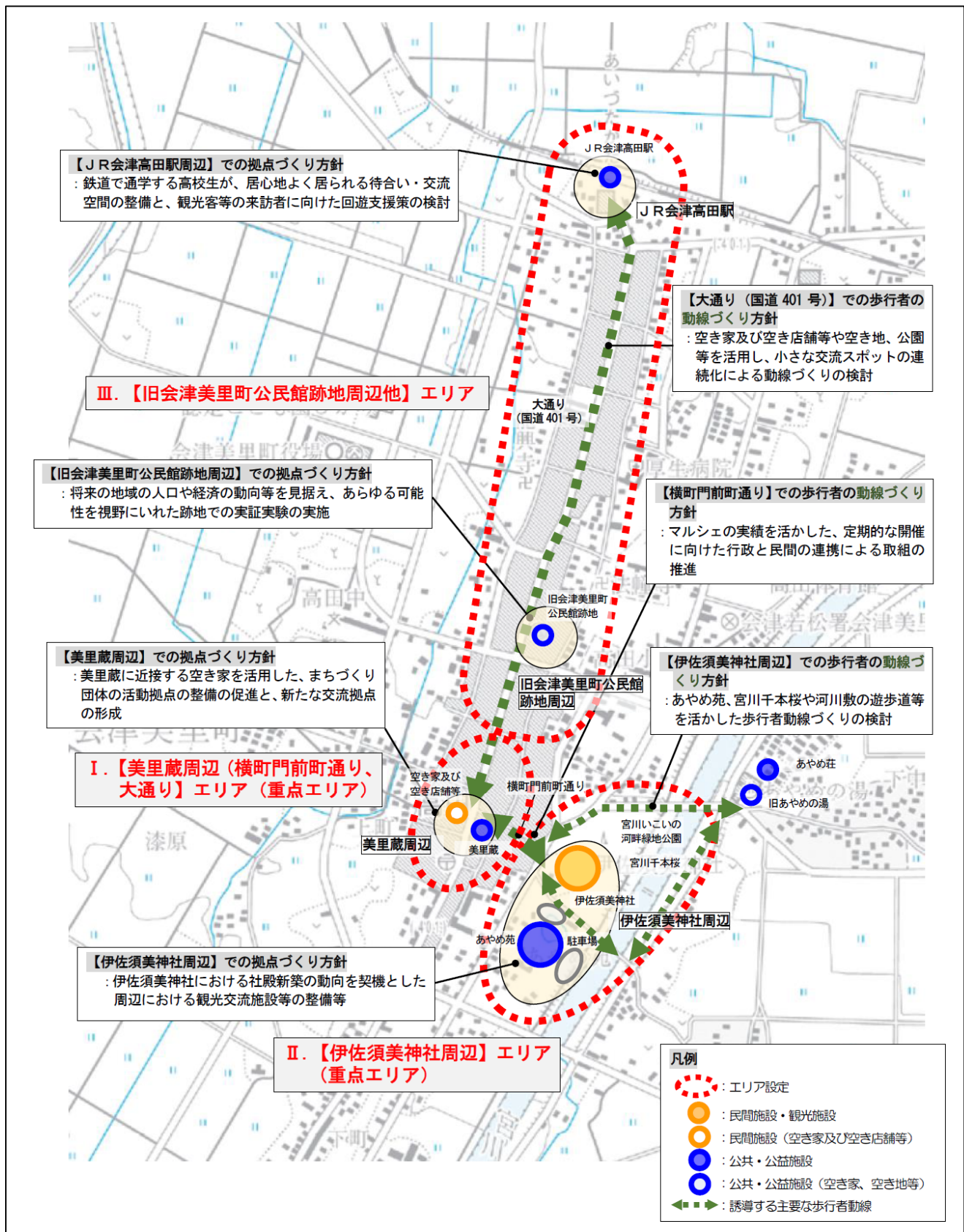
I. 美里蔵周辺（横町門前町通り、大通り） →P19

II. 伊佐須美神社周辺 →P20

III. 旧会津美里町公民館跡地周辺他 →P21



図 14 高田地域まちなか賑わい創出基本計画 全体イメージ図



I. 美里蔵周辺（横町門前町通り、大通り）

「美里蔵」などの既存のまちなか拠点が位置する横町門前町通りは、伊佐須美神社に隣接し、高田地域の歴史と文化を感じられる重要な場所であり、**地域住民や観光客の交流拠点**として魅力を高めていくことを目指します。

新たに、まちづくり団体の活動拠点を整備し、世代を超えた様々な人材が集まるハブ（**結節点**）機能を持たせ、人材育成と地域課題解決の拠点づくりを進めます。

大通り（国道401号）は高田地域の主要な道路であり、店舗は減少しているものの、高田地域で唯一商業施設や金融機関等が集まっていることに加え、お祭りの舞台としても親しまれ、地域を代表する通りです。

空き店舗や空き地を活用して、チャレンジショップ等により町民が集う小さな拠点を増やし、横町門前町通りと一体となった魅力づくりを進めます。

●行政の取組（民間と連携）

- ①みんなのまちなか拠点づくり支援
- ⑤チャレンジショップへの創業支援の充実と拡充
- ⑥空き家及び空き店舗等活用の情報収集、仕組みづくり（活用のための意向調査等）
- ⑨回遊支援策の検討（情報発信、二次交通等）

●民間の取組

- ・マルシェ等の定期的開催と定着化の検討
- ・飲食等の場の提供（おしゃれな空間、家族や友人たちと楽しむ場、夜も楽しめる場）
- ・高田地域の特産品の販売
- ・子どものまちづくりへの参加機会の提供
- ・地域の生活文化や歴史を活かした体験プログラムの企画提供

※丸数字は後出 P24の表 8 「施策の体系」の「行政の取組」と対応



美里蔵周辺

Ⅱ．伊佐須美神社周辺

伊佐須美神社は地域住民にとって大切な信仰の場、憩いの場であると共に、毎年6月に開催されるあやめ祭りでは12万人が訪れるなど、県内外から多くの参拝客や観光客が訪れる観光拠点でもあります。

伊佐須美神社は令和12年（2030年）に社殿再建を目指していることから、この機会を活かし、周辺地域においても、観光客の滞留や回遊を促すとともに、住民が誇れる象徴的なエリアとなることを推し進めます。

また、民間開発による観光交流施設の整備の誘導促進に向けて、民間が進出しやすくなるように必要な環境を整えます。

●行政の取組（民間と連携）

- ③既存イベントの継続と改善
- ⑩民間開発を促すための都市計画の見直し

●民間の取組

- ・伊佐須美神社周辺での仮設店舗等による実証実験
- ・マルシェ等の定期的開催と定着化の検討（再掲）

※丸数字は後出 P24の表8「施策の体系」の「行政の取組」と対応



伊佐須美神社



あやめ祭り

Ⅲ. 旧会津美里町公民館跡地周辺他

旧会津美里町公民館跡地は、まちなかの中心として、長年町民に親しまれてきた場所で、3,000㎡の貴重なスペースを有しています。

将来の地域の人口や経済動向を見据えて、あらゆる可能性を視野に入れ、**暫定的に広場と仮設建物を整備し、地域のニーズを踏まえた実証実験（日常的な集いやイベント開催等）**を行いながら、引き続き活用方法を検討していきます。

具体的な例として、移動式店舗（トレーラーハウス等）、ウッドデッキ、軽運動設備、駐車場、移動式トイレなどを設置し、多目的な利用が可能な空間を創出します。

また、天海大僧正生誕の地の碑が設置されるなど、高田地域の歴史と文化を継承する役割も担っており、国宝一字蓮台法華経を継承してきた龍興寺にも近いことから、観光回遊拠点としての活用を進めます。

その他の地域として、J R会津高田駅は多くの高校生に通学で利用され、また観光で注目される只見線の停車駅であることから、ポテンシャルを有した「町の玄関口」と言えます。民間との連携を図りながら、駅の利用環境の向上を目指します。

●行政の取組（民間と連携）

- ②仮設建物を活用したコミュニティスペースの整備
- ⑨回遊支援策の検討（情報発信、二次交通等）（再掲）
- ⑪天海大僧正の石像を含めた周辺文化財の利活用

●民間の取組

- ・コミュニティスペースの創出、運営（カフェ等）
- ・子どもの遊びや子育て世代のための場づくり
- ・小中学生が遊びや勉強できる場づくり
- ・高齢者等の健康づくり活動の場づくり
- ・高校生の放課後の居場所づくり（電車等を待つ場所の環境整備）

※丸数字は後出 P24の表 8 「施策の体系」の「行政の取組」と対応



旧会津美里町公民館跡地



天海大僧正像



J R 会津高田駅

2. 各エリアにおける歩行者の動線づくり方針

これまでに示した回遊拠点となる各施設間を結ぶ歩行者の動線を整備し、歩行者が歩きたくなる動線を明確にし、その道路等に歩行者を誘導するための取組を進めます。

具体的には、横町門前町通りや大通り（国道401号）を中心とし、加えて伊佐須美神社周辺についても歩行者の誘導を進めます。

（1）大通り（国道401号）での歩行者の動線づくり方針

大通り（国道401号）沿いは、地域のメインストリートではありますが、近年は、空き家及び空き店舗等が増えています。一方、古くからの街並みや商店があり、商店で品物を買うだけでなく、お茶を飲んだり、情報交換をしたり、地域住民のコミュニティの場でもありました。

今後は、旧会津美里町公民館跡地における取組と連携し、空き家及び空き店舗等や空き地、公園等を活用した魅力的な交流スポットを行政と民間による連携で創出し、繋がっていくことで歩行者が歩きたくなる動線づくりを進めます。

（2）伊佐須美神社周辺での歩行者の動線づくり方針

伊佐須美神社周辺には、あやめ苑、宮川千本桜や河川敷の遊歩道等も整備されており、これらを活かした歩行者動線づくりの施策を検討し、取り組みます。

（3）横町門前町通りでの歩行者の動線づくり方針

横町門前町通りでは、令和5年度から令和6年度の2カ年で計4回のマルシェを実施し、一定の観光客があり、他のイベントとの連携等、新たな可能性が見られました。

今後も、これまでのマルシェの実績やそこで得られたノウハウを活かし、定期的な開催に向けた取組を促進します。

将来的には、隣接エリアの住民を含め「この日に行けばマルシェをやっている」と認識してもらえるよう、マルシェの定期的な開催に向けた行政と民間の連携による取組を推進します。

第6章 施策の体系と個別の取組内容

1. 施策の体系

前章の各取組について、4つの施策の方向性と6つの基本施策を体系的に整理したものが下の表7になります。

施策の方向性としては、次の4つを設定します。

計画の目的である賑わい創出と回遊性の向上、及び第4章で示した目指すまちの姿を実現するために、町民が行きたいと思える場所や、観光客が訪れたいと思える場所をつくります（A）。

そのためには、主体となるプレイヤー（出店者など）を発掘し、チャレンジしやすい環境を整える必要があります（B）。

また、これらの活動場所として、空き家及び空き店舗等の活用を推進すると共に、ユーザー（町民や観光客）の目的地として創出された場所を含め、まちなかの回遊を促す施策を進め、賑わいを地域全体に広げます（C）。

こうした活動を継続し拡充するための体制を整えます（D）。

表7 施策の方向性と基本施策

施策の方向性	基本施策
A. ユーザー（町民や観光客）の目的地づくり	(1) 集いの場づくり (2) 楽しむ場づくり
B. プレイヤーの創出、支援	(3) 賑わいづくり人材の創出、支援
C. 面的な魅力づくり	(4) 空き家及び空き店舗等を活用しやすい環境づくり (5) 拠点ネットワークによるまちなかの魅力向上 (伊佐須美神社～まちなかの回遊)
D. 推進体制づくり	(6) 推進体制の構築、運営

表8 施策の体系

施策の方向性	6つの基本施策	行政の取組（民間と連携）
A. ユーザー （町民や観光客）の目的地づくり	(1) 集いの場づくり →誰もが気軽に集まれる場	①みんなのまちなか拠点づくり支援
	(2) 楽しむ場づくり →飲食、買物、エンターテインメント、観光などの楽しみ	②仮設建物を活用したコミュニティスペースの整備
B. プレイヤーの創出、支援	(3) 賑わいづくり人材の創出、支援	③既存イベントの継続と改善
C. 面的な魅力づくり	(4) 空き家及び空き店舗等を活用しやすい環境づくり	④各種調整をするコーディネーター人材の育成
	(5) 拠点ネットワークによるまちなかの魅力向上 （伊佐須美神社～まちなかの回遊）	⑤チャレンジショップへの創業支援の充実と拡充
D. 推進体制づくり	(6) 推進体制の構築、運営	⑥空き家及び空き店舗等活用の情報収集、仕組みづくり（活用のための意向調査等）
		⑦駐車場の配置計画
		⑧トイレ等の改修や休憩スペースの検討
		⑨回遊支援策の検討（情報発信、二次交通等）
		⑩民間開発を促すための都市計画の見直し
		⑪天海大僧正の石像を含めた周辺文化財の利活用
		⑫エリアプラットフォームの運営支援
		⑬データ収集、分析、活用
		⑭外部との連携、人材活用（姉妹友好都市等活用）

民間の取組	エリア			対象	
	美里蔵 周辺	伊佐須美 神社	旧会津美 里町公民 館跡地他	町民 向け	観光客 向け
みんなのまちなか拠点づくり	○			○	○
子どもの遊びや子育て世代のための場づくり	○		○	○	
小中学生が遊びや勉強できる場づくり	○		○	○	
高校生の放課後の居場所づくり（電車等を待つ場所の環境整備）			○	○	○
コミュニティスペースの創出、運営（カフェ等）			○	○	
高齢者等の健康づくり活動の場づくり			○	○	
	○	○		○	○
マルシェ等の定期的開催と定着化の検討	○	○		○	○
飲食等の場の提供（おしゃれな空間、家族や友人たちと楽しむ場、夜も楽しめる場）	○			○	○
高田地域の特産品の販売	○				○
伊佐須美神社周辺での仮設店舗等による実証実験		○			○
副業希望者等の掘り起こし	○		○	○	
空き家及び空き店舗等とプレイヤーとのマッチング	○		○	○	
子どものまちづくりへの参加機会の提供	○			○	
空き家及び空き店舗等の調査への協力	○			○	
	○	○	○	○	○
SNS等を活用したイベント情報等の発信	○		○		○
		○			○
			○		○
地域の生活文化や歴史を活かした体験プログラムの企画提供	○				○
エリアプラットフォームの運営					
副業希望者等の掘り起こし（再掲）	○		○	○	
空き家及び空き店舗等とプレイヤーとのマッチング（再掲）	○		○	○	
収益化の検討（ふるさと納税の商品企画、管理運営等）					○
	○	○	○		
	○	○	○		

2. 個別の取組内容

ここでは、6つの基本施策ごとに、各取組内容について整理します。

(1) 集いの場づくり

子どもから高齢者まで、だれもが気軽に集まれるまちなかを形成します。

ここでは、コミュニティの形成を重視し、平日の日中の利用を想定します。

<行政の取組>

①みんなのまちなか拠点づくり支援

「美里蔵周辺」の空き家及び空き店舗等を活用し、まちづくり団体（エリアプラットフォーム、P31参照）の活動拠点を民間と連携して新たに整備します。

拠点は複合的な機能をもたせ、町民や訪れた方が交流でき、賑わいづくりに関するあらゆる情報やアイデアが集まる地域のハブ機能となることを目指します。既存のまちなか拠点と連携しながら役割を分担し、民間による運営を支援します。

②仮設建物を活用したコミュニティスペースの整備

旧会津美里町公民館跡地等にトレーラーハウス等の仮設建物を設置し、地域住民が日常的に集える場所を提供します。

<民間の取組>

- ・子どもの遊びや子育て世代のための場づくり
- ・小中学生が遊ぶスペースや勉強できる場づくり
- ・高校生の放課後の居場所づくり（電車等を待つ場所の環境整備）
- ・コミュニティスペースの創出、運営（カフェ等）
- ・高齢者等の健康づくり活動の場づくり

＜まちなかに求められている機能（ワークショップ結果より）＞

●集う場として

- ・乳幼児親子が集える、遊べる場
- ・小中学生が遊びや勉強できる場
- ・こども食堂※、地域カフェ※
- ・高齢者のお茶のみの場
- ・高齢者の軽運動の場
- ・地域の情報が集まり、発信する場

●楽しみの場として

- ・飲食の場の提供（おしゃれな空間、夜間営業）
- ・高田地域の特産品の販売

※こども食堂：子どもや地域住民がひとりで入れる無料または安価な食堂。子どもの居場所づくりや孤食防止、貧困対策、多世代交流、地域づくり等を目的に、非営利団体等が運営。

※地域カフェ：地域住民の交流や居場所づくりを目的としたカフェ。

(2) 楽しむ場づくり

飲食や買物、エンターテインメント、観光などを楽しめるまちなかを形成します。

ここでは、土日や夜の利用を想定し、経済活動を促進します。

<行政の取組>

③既存イベントの継続と改善

既存のイベントについては、民間との連携により、見直しながら継続します。

地域との交流の状況や負担、経済効果も考慮しながら、改善していきます。

<民間の取組>

- ・ マルシェ等の定期的開催と定着化の検討
- ・ 飲食等の場の提供（おしゃれな空間、家族や友人たちと楽しむ場、夜も楽しめる場）
- ・ 高田地域の特産品の販売
- ・ 伊佐須美神社周辺での仮設店舗等による実証実験

(3) 賑わいづくり人材の創出、支援

まちなかの賑わいづくりを担う人材を発掘、育成し、民間による活動を促進するため、行政と民間が連携して支援する仕組みを構築します。

<行政の取組>

④各種調整をするコーディネーター人材の育成

プレイヤーを発掘し、彼らと地域をつなげ、活動や起業を促す人材を育成または確保します。

⑤チャレンジショップへの創業支援の充実と拡充

空き家及び空き店舗等や仮設建物（旧会津美里町公民館跡地）等を活用し、シェアキッチン※やイベントスペースなどからなるチャレンジショップを設け、起業を支援すると共に、まちなかに不足する楽しみやサービスを補完します。

行政としては、創業支援事業補助金等の充実と拡充により、地域のプレイヤーが定着するように伴走しながら起業を支援します。

タイムシェア※等、運営を工夫し、様々な方が関わり賑わいを生む仕組みを構築します。

※シェアキッチン：複数の料理人や飲食店が共同で使用するキッチン

※タイムシェア：1つの物件を時間で細かく区切って賃貸する仕組み。

＜民間の取組＞

- ・ 空き家及び空き店舗等とプレイヤーとのマッチング
- ・ 副業希望者等の掘り起こし
- ・ 子どものまちづくりへの参加機会の提供

（４）空き家及び空き店舗等を活用しやすい環境づくり

空き家及び空き店舗等の活用を推進するために必要な環境づくりを進めます。

＜行政の取組＞

⑥空き家及び空き店舗等活用の情報収集、仕組みづくり

活用できる空き家及び空き店舗等の情報収集を行い、活用に向けた仕組みづくりを推進します。具体的には、地域住民を対象とした活用意向調査や、空き家改修補助金等による支援を行います。

＜民間の取組＞

- ・ 空き家及び空き店舗等の調査への協力

（５）拠点ネットワークによるまちなかの魅力向上（伊佐須美神社～まちなかの回遊）

拠点と拠点をつなぎ、まちなかの回遊性を高めるための環境整備を進めます。

＜行政の取組例＞

⑦駐車場の配置計画

マルシェの拡充などにより混雑が予想される際には、混乱が生じないよう臨時駐車場を含めた駐車場の運用のあり方を検討します。

⑧トイレ等の改修や休憩スペースの検討

まちなかに安心して滞在できるよう、清潔で使いやすいトイレに改修すると共に、まちなかの必要な場所に、休憩スペースの設置を検討します。

⑨回遊支援策の検討（情報発信、二次交通等）

まちなかの回遊を促すための情報提供を、主な観光施設や拠点（伊佐須美神社、ＪＲ会津高田駅、高田インフォメーションセンター、飲食店等）で行います。

また、ＪＲ会津高田駅との距離を補完するものとして、自家用車以外の二次交通の導入も検討します。

⑩民間開発を促すための都市計画の見直し

将来、観光交流施設等の民間開発を誘致するため、必要に応じて都市計画の見直しを検討します。

⑪天海大僧正の石像を含めた周辺文化財の利活用

天海大僧正の石像や関連する寺院や文化財等の歴史文化資源を活用した、町内散策や体験プログラム等により、町内外の方の関心を深め、誘客につなげます。

<民間の取組>

- ・SNS等を活用したイベント情報等の発信
- ・地域の生活文化や歴史を活かした体験プログラムの企画提供

(6) 推進体制の構築、運営

各種取組を推進するための体制を整え、賑わいづくり活動を継続します。

<行政の取組>

⑫エリアプラットフォームの運営支援

マルシェの運営をはじめとしたイベントの企画運営、まちなかの拠点運営など、地域のプレイヤーの発案による活動を、民間が主体となって取り組んでいくための体制を構築します。

具体的には、まちなかに関わる事業者や団体、行政から構成されるエリアプラットフォームが、将来像や実施内容を盛り込んだ「未来ビジョン」に基づき、活動を推進し、行政はその活動を支援します。

⑬データ収集、分析、活用

将来にわたる賑わいづくりに向けて、適切で効果的な戦略を立てるため、各種統計データを収集し分析する、データアナリストとなる人材の確保を目指します。

⑭外部との連携、人材活用（姉妹友好都市等活用）

発信力のある人材、情報発信、イベント等の企画など、あらゆる面で外部（高田地域外、町外、県外等）の方々の知恵や経験、知名度等を活用し、交流人口の増加を目指します。

<民間の取組>

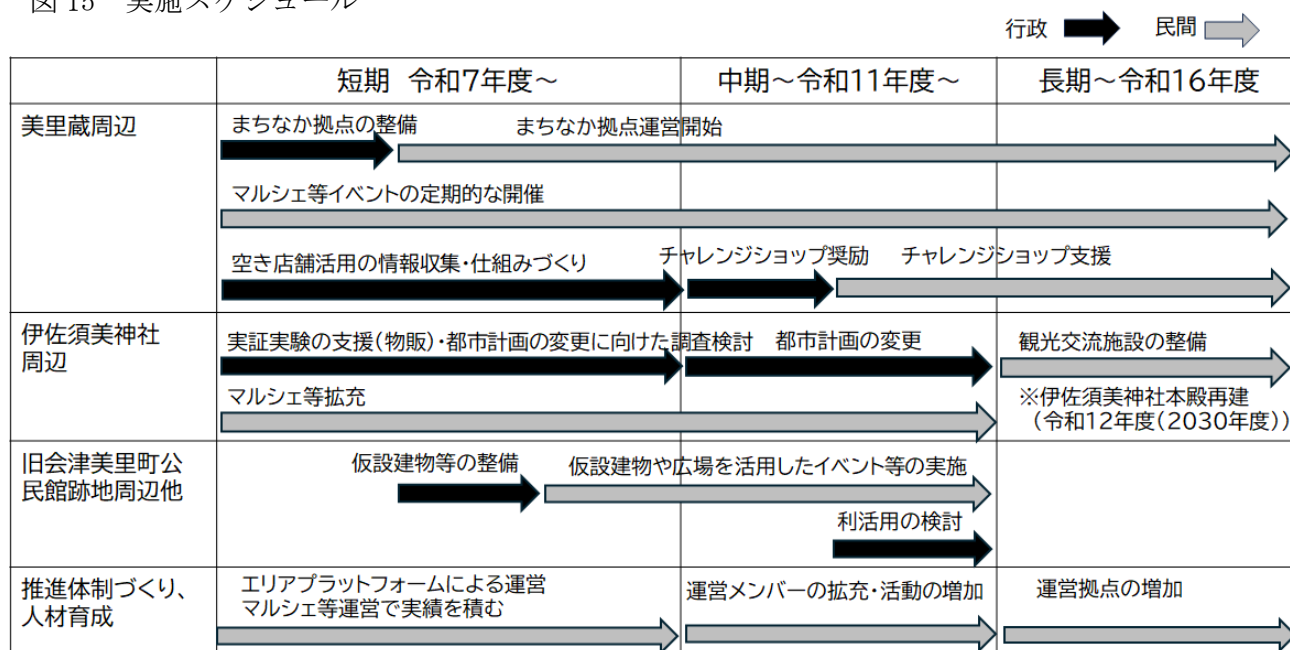
- ・エリアプラットフォームの運営
- ・副業希望者等の掘り起こし（再掲）
- ・空き家及び空き店舗等とプレイヤーとのマッチング（再掲）
- ・収益化の検討（ふるさと納税の商品企画、管理運営等）

第7章 実施スケジュール

短期的には、行政と民間が連携しながら、まちなか拠点の整備と運営を進め、マルシェ等のイベントを実施し、推進体制づくりと人材育成を進めます。

長期的には、伊佐須美神社本殿が再建される令和12年度頃に向けて、空き家及び空き店舗等の活用などの取組により、まちなかの魅力と回遊性を高めていながら、観光交流施設の整備を目指します。

図 15 実施スケジュール



第8章 計画の実現化に向けて

1. 官民連携による実行体制の構築

基本計画は、実際には行政と民間が連携して推進していくものであり、地域の主役である民間が中心となって各施策を実行するための体制として、エリアプラットフォーム組織「高田まちなか賑わい創出エリアプラットフォーム」を立ち上げ、民間が主体となって推進していきます。

(1) 高田まちなか賑わい創出エリアプラットフォームとは

エリアプラットフォームとは、地域の価値を向上するため、まちづくりの担い手やまちづくりに関心のある事業者や団体、住民、行政等が集まり、まちの将来像（未来ビジョン）とその実現に向けた取組について、協議と調整を行い、実行する組織で、官民連携まちなか再生推進事業（国土交通省）を活用して設立するものです。

高田地域においては、これまでも地域のために尽力してきたプレーヤーである商店街の事業者、地域住民、まちづくり団体、福祉関係団体、金融機関、商工会、観光協会等民間と行政が連携して賑わいづくりに取り組む組織を「高田まちなか賑わい創出エリアプラットフォーム」とします。

高田まちなか賑わい創出エリアプラットフォームは地域の拠点であり、賑わいづくりを実行する主体でもあります。地域の様々なプレーヤーが情報や問題意識を共有し、それぞれの得意分野を活かしながら地域課題の解決を目指します。

(2) 高田まちなか賑わい創出エリアプラットフォームの活動目的

高田地域のまちなかに、賑わいを創り出すことを目的とします。

まちなかに賑わいを創り出していくことで、地域のプレーヤー同士が連携することによる人材育成や経済的な波及効果も見込みます。地域が賑わっていく恩恵を、地域の住民もプレーヤーも次の世代等、誰もがその恩恵を受けることができることをめざします。

(3) 高田まちなか未来ビジョン

民間主体である高田まちなか賑わい創出エリアプラットフォームが、高田地域の賑わい創出に向けて、将来像とその実現に向けた取組内容をまとめたものが「高田まちなか未来ビジョン」（以下「未来ビジョン」）です。

未来ビジョンは、令和7年度から令和16年度までの10年間を実施期間とし、行政計画である高田地域まちなか賑わい創出基本計画による支援を受けながら、行政と連携して取り組むものです。

（４）高田まちなか未来ビジョンにおける高田まちなか賑わい創出エリアプラットフォームの活動内容

まちなかの空き店舗等を活用し、高田まちなか賑わい創出エリアプラットフォームの拠点を整備し、世代を超えた様々なプレーヤーが集い、情報や課題を共有する場であると同時に、まちなかの事業者との連携や、地域住民も気軽に立ち寄り、憩える場を目指します。

また、令和５年度から地域の有志で企画されてきた「マチミセマルシェ」を運営し、地域のプレーヤーの更なる参画等により、イベントの充実を図ると共に、地域への還元を図ります。

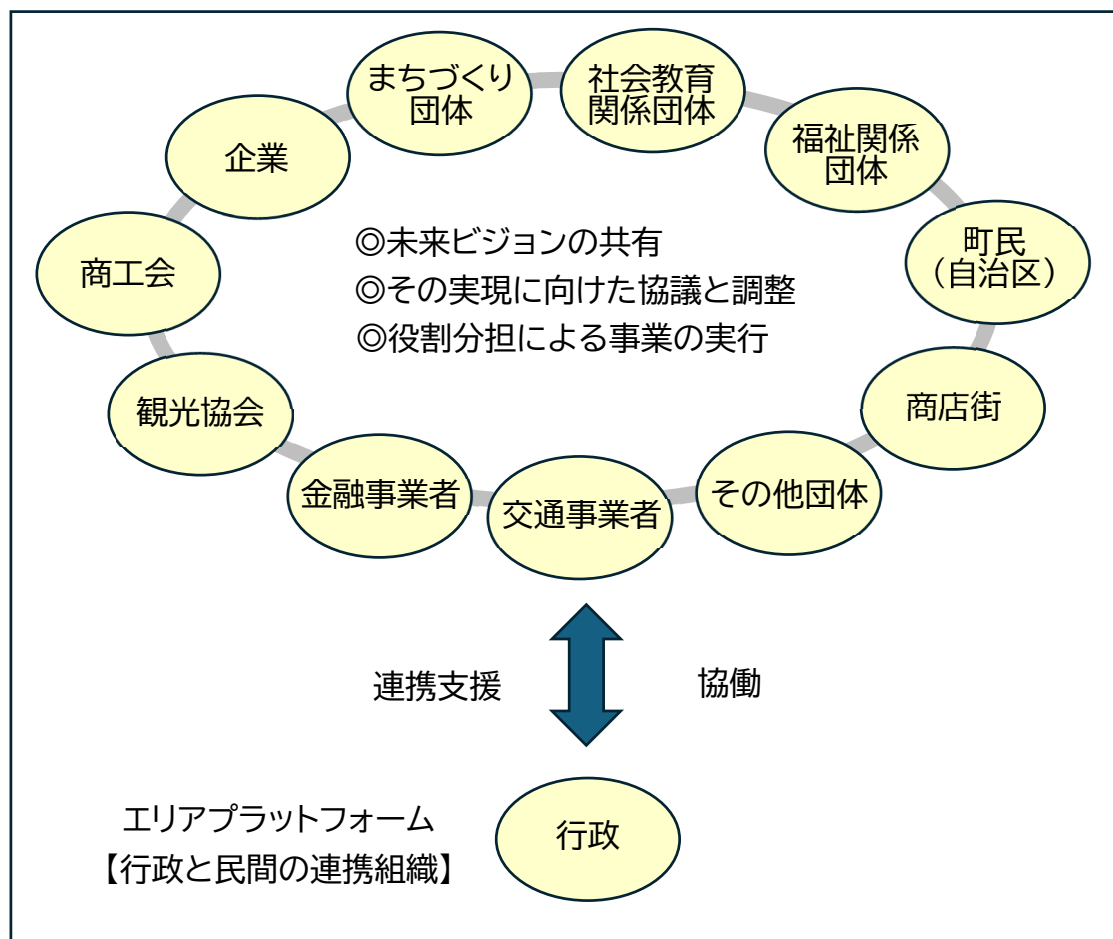
具体的には、まちなかの空き地等を活用した地元農家による軽トラファーマーズマーケットや子育て世代によるフリーマーケットを企画するなどして、地域住民の広がりや参画を目指します。

マルシェを起点とし、地域のプレーヤーのネットワークを構築し、空き家及び空き店舗等の利活用につなげ、地域の課題をひとつひとつ解決していくことで、まちなかに賑わいを創り出すこと目指します。

（５）行政との関係性

高田まちなか賑わい創出エリアプラットフォームは、民間主体の組織ですが、本基本計画に基づき、民間に寄り添う形でソフト面での政策を中心に支援を継続していきます。

図16 高田地域まちなか賑わい創出エリアプラットフォームの構成員（想定）

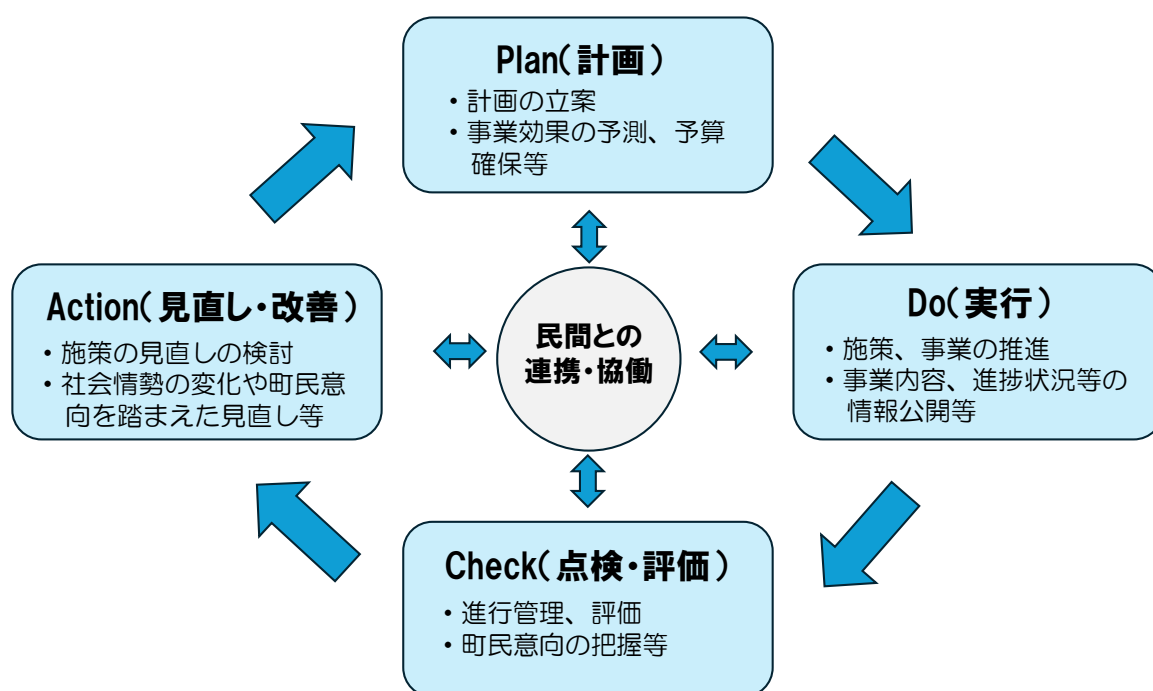


2. 計画の見直しと推進

本計画の推進にあたっては、PDCA サイクル<Plan（計画）、Do（実行）、Check（点検と評価）、Action（見直しと改善）>の理念に基づき、評価と改善を十分に行いながら、目標の実現に向けて、実効性を高めていきます。

特に、長期的な計画であるため、各施策の進捗状況を点検、評価しながら、社会的な状況の変化に柔軟に対応する必要があることから、中間目標年次である5年後の令和11年(2029年)に計画の実現状況を評価し、状況に応じた見直しを行います。

図 17 進行管理のイメージ



参考資料

1. 高田地域まちなか賑わい創出協議会委員名簿

◎：委員長 ○：副委員長

氏名	種別	肩書
◎阿部 雄一郎	地域づくり団体	会津まちづくりパートナーズ合同会社
○安達 忍	地域づくり団体	みさとねっと
伊東 穰	商工会理事	商工会推薦 伊東種苗店
大木 瑠美子	地域おこし協力隊	地域おこし協力隊
城戸 政俊	P T A団体	高田中P T A会長
児島 みゆき	福祉団体	訪問看護 こころのあい
小松 大	福祉団体	会津美里町包括支援センター
渋井 康之	福祉団体	グループホームあけぼの理事長
鈴木 光浩	観光協会理事	観光協会推薦 旭屋鈴木商店
長原 辰男	自治区長会	会津美里町自治区長連絡協議会推薦者
長谷川 竜也	地域づくり団体	一般社団法人 TORCH
元木 博人	P T A団体兼農業	宮川小P T A会長 農業
八木橋 彰	学識経験者	会津大学短期大学部准教授
湯田 佳子	商店街事業者	丸山印店
吉田 亜希	金融機関	会津信用金庫高田支店長
吉原 賢一	商店街事業者	吉原製菓
梁取 伸行	商工会職員	会津美里町商工会

2. 令和6年度 高田地域まちなか賑わい創出協議会 検討経緯

日程	検討会等	内容
令和6年 9月10日	第1回協議会	前年令和5年度の確認と今年度のスケジュールについて
10月16日	第1回町民ワークショップ	旧高田温泉あやめの湯の活用について
10月20日	マチミセマルシェ	
10月24日	第2回町民ワークショップ	伊佐須美神社周辺及び横町門前町通りの活用について
11月12日	第3回町民ワークショップ	旧会津美里町公民館跡地及び高田駅周辺の活用について
11月20日	先進地視察（南会津町）	エリアプラットフォームについて
12月26日	第2回協議会	ワークショップの結果報告と基本計画の基本方向について
令和7年 1月31日	まち育て連携フォーラム2025 in 須賀川	先進地視察
2月5日	まちなかにぎわいづくり勉強会～地域商業環境づくり支援事業活動発表会	福島県主催の市町村の事例発表会
2月6日	第3回協議会	基本計画の検討
2月14日～3月13日	パブリックコメント	
3月27日	第4回協議会	基本計画の確認

3. 令和6年度ワークショップの意見のまとめ

分類	項目	主な意見	詳細
1. ユーザーの目的地づくり ・集える場所をつくる ・楽しみをつくる	○旧あやめの湯の活用	【町提案】コンビニジムの誘致とコミュニティスペースの創出 →多額の改修費がかかることから旧あやめの湯は取り壊し、あやめ荘を利用してはどうか。 →壊す前に売却を再検討してもよい(養殖場など)。 →町民が求めている施設かどうか要検討。 ●子どもの遊びや子育て家族のための場 ●走るのが好きな人が多い(トリムコース)ので、ジムよりトレーニング施設 ●高齢者のリハビリ施設 ●誰もが気軽に利用できるコミュニティの場	・企業の誘致、大きな遊具、冬も遊べる
	○伊佐須美神社周辺	【町提案】民間による物産交流施設の整備(町の製品の出口) ●社の駅(道の駅のような施設)の整備 ●飲食施設 ●福林亭の活用 ●観光客が留まれる場所 ●足湯 ●伊佐須美の森～あやめ苑の楽しい散策 MAP をつくる	・キッチンカー(今はコーヒー屋あり) ・あやめ苑駐車場にカフェやテイクアウトの店とベンチ ・そば名人による週替わり出店 ・かき氷やコーヒーなどできるところから！ ・観光案内・物産販売 ・蛍など活用した夏の思い出づくり
	○横町門前町通り～大通り(国道401号)	【町提案】まちなか拠点作り(エリブラの拠点、みんなのハブ) ●子どもの立ち寄り処 ●子育て世代向けにかじを切る(情報は子育て世代から) ●お年寄りのお茶のみ場所 ●夜間の飲食施設、宿泊施設 ●千葉書店にイベントや就労情報などの地域情報 ●おしゃれなカフェ、ランチできる店 ●空き店舗を利用して、山側の人気店に出店してもらう ●チャレンジショップ ●町民が使える加工場、菓子製造ができる場所 ●伊佐須美神社～斎神社(西ノ宮)の動線づくり ●定期的なマルシェ ●お祭りの練習場、当日休憩所、反省会の場所 ●全てを商店街にもってこくのはどうか ●高校生、現在はローソンとの往復	・高学年の子どもの居場所、中高生が勉強できる ・巨大遊具、カフェ(週末カフェ、セルフ、wifi、キッズスペース) ・夜イベント後に過ごせる(お金を落とせる) ・まち案内、ワークショップ、ミーティングも ・週1回まちなかで販売会(出店しやすく) ・タイムシェアスペース ・御朱印も販売 ・商店街は地元の人が人に会いに来るところ
	○旧公民館跡地の整備	【町提案】広さを活かした世代を問わないコミュニティフリースペース ●ここは高田の中心であり、ここに人を集めることが重要 ●人が集まって休む場所 ●集会所 ●お田植えの時に馬が休んだり、人が休める場所 ●高齢者向けの運動教室を実施できる場所(健康遊具の設置) ●障がい者も楽しめる場所 ●子どもたちが遊べる場所 ●老若男女が使える ●総合福祉センター(子ども～高齢者)、子育て施設の整備 ●多目的に使える ●仮設建物を設置し、時代に合わせた形に変化させていく ●現状も空きスペースにせず、有効的に使うべき ●売却して宅地化し、若い人を呼び込む	・トレーラーハウス+ウッドデッキ、トイレ、駐車場 ・祭りやマルシェ等イベントへ対応 ・高齢化によりこのような場所が今後求められる ・外でも室内でも運動でき、自由に出入り出来る ・高齢者は子どもを見るのが嬉しい ・暫定利用や実証実験
	○会津高田駅周辺	【町提案】玄関口として、トイレ、待合所の美化 ●只見線利用の観光客が町中に移動しお金を落とす流れ ●駅の最大のユーザーである高校生のスペースと仕組み ●観光ツアーを作って仕掛けてみる ●イルミネーションは人気 ●待合等での展示企画もよい ●駅周辺は暗くて怖い、防犯は課題	・複合的に民間活用、観光資源化 ・高校生のボランティア団体の活動スペースや管理人の不在。 ・高校生が集まれば、お店が出来て次に違う新しいものが産まれる ・トレーラーハウスでも良いので、高校生をケアしてあげて欲しい(カフェなども併設) ・こうした仕掛けが重要

分類	項目	主な意見	詳細
	○その他アイデア	●博士ちゃんを活かす(麻雀、味噌、妖怪) ●ニッチなニーズへの対応 ●高田の人は祭りが好き	・コスプレ、鉄道、会津の製造業の直場所
2. プレイヤーの支援 ・人づくり ・活動支援	○にぎわいづくり人材の創出	●【町提案】マルシェで人材、推進チームをつくる ●【町提案】空き店舗等とプレイヤーのマッチング ●成り手は結構いる(出店希望を多く耳にする) ●起業したい人を集める ●タウンマネージャー(全体プランを考える人)が必要 ●広場のようなスペースを作るには管理する人が必要	・チャレンジショップ、特に体験型民泊と飲食 ・草刈り等管理はみなで協力できる
	○活動を後押しする支援の仕組みづくり	●【町提案】創業支援事業補助金の充実、拡充 ●開業サポートを目的としたシェアキッチン ●やりたい意思を具現化するための、てこ、人手、時間、お金事業として成り立たせるための土台づくり ●【町提案】伊佐須美エリアの都市計画を見直して商業施設等が進出しやすく ●【町提案】スタートアップ支援	・例:猪苗代・ななかまど食堂
3. 面的な魅力づくり ・回遊したくなる環境・動線づくり	○空き家等を活用した環境づくり	●活用できそうな空き家等 ●レトロ建物等を活かし「映え」を意識した景観整備 ●古いトイレの改修、トイレの設置(伊佐須美、旧公民館跡地) ●まずは駐車場のことを考えてから施設を作る ●施設を建てるとイベント時の駐車場が不足 ●あまり使われていない駐車場にトレーラーハウスを設置 ●日陰、休めるところ	・紅葉館、美里蔵(内部の壁を除き大空間に) ・駅周辺に活用できそうな建物あり ・建物前面の改修支援(例:伊勢・おかげ横丁) ・駐車場を分散すると人手が必要
	○拠点のネットワーク	●エリブラ拠点と美里蔵の機能のすみ分け or 連携 ●機能の集約化(初期段階) ●まち全体マルシェと見立てる ●伊佐須美神社～まちなかをつなぐ駐車場 ●2030年の伊佐須美神社再建に合わせて、それまでに人が回遊する工夫が必要(喫茶店や駐車場)。	・神社周辺に、エリブラ拠点もカフェも集中 ・エリブラ&物産 ・人が集まる場所でマルシェを定期的開催 ・河川敷駐車場に止めた人が門前町まで歩く仕掛け(例:大内宿) ・牽納旗で動線
4. 推進体制づくり ・活動を継続する仕組みづくり	○推進体制の構築、運営	●【町提案】民と町の連携による「エリアプラットフォーム」の構築、運営 ●エリブラが自走するために町の仕事を委託 ●拠点維持、収益化の方法 ●限られたマンパワーなので、選択と集中が必要 ●町民の意識の向上が先決	・イベント運営だけでは厳しい ・ふるさと納税で利益を上げる ・高田梅酒(例:子ども誕生時に作り、二十歳まで保存) ・終活 ・シェアキッチンの仕組み ・またぎ体験 ・地域ブランドを作る!(認定、販売) ・日本酒等をもっと前面に(例:酒屋でもっさり)

その他(コンサル意見)

○外部との連携、人材等の活用(姉妹都市などの有効活用)

○子どもの賑わいづくりへの参加

○データ収集、分析、活用

○空き家等の活用意向調査

○駅舎の拠点化(玄関口として、長期的に交通との連携)

4. 令和5年度 高田地域まちなか賑わい創出協議会 検討結果

(1) 検討経緯

日程	検討会等	内容
令和5年 7月14日	第1回協議会	現状把握と課題の共有、検討スケジュールの確認、第1回町民アンケートの設問の検討、求める賑わいについての意見交換
8月	第1回町民アンケート	住民意識の現状確認（賑わいの必要性等）
8月31日	第2回協議会	第1回アンケート結果の分析と、賑わいに必要な機能等の検討
9月29日	第1回ワークショップ	住民の意見要望の深掘り
10月13日	第2回ワークショップ	住民の意見要望の深掘り
10月26日	第3回協議会	賑わいの方向性の検討
11月	会津西陵高校生アンケート	若い世代の賑わいに関する意識の確認
12月7日	第4回協議会	高校生アンケートの分析と先進事例の研究
令和6年 2月	第2回町民アンケート	これまでの意見を踏まえた賑わいづくりの方向性案の検討
3月18日	第5回協議会	賑わい創出の方針案の検討

(2) 高田地域まちなか賑わい創出ビジョンの方針

令和5年度 高田地域まちなか賑わい創出ビジョンの方針

全世代、居心地のいいサードプレイス
住んでいる人が生き生きと楽しんでいる
家族や友人と思い出をつくるまち

1. 高田地域の中心市街地についての方針は、

1	昼は高齢者、夕方は学生、夜は大人。週末はごちゃまぜの世代間交流で趣味や娯楽を楽しむサードプレイス 集客装置は、時間帯によって形態を変え、みんなのサロンになるカフェ ここに来る理由は、趣味娯楽を楽しむため、会いたい人に会うため	コミュニティ
2	時間帯で経営形態の変わるチャレンジショップストリート 集客装置は、飲食店、クラフトアート、Eスポーツなどのチャレンジショップ ここに来る理由は、美味しいものを食べたり、欲しいものを買うため	商業・観光振興
3	マルシェなどが開催できるように「まちなかフリースペース化」「まちごとイベント会場化」 集客装置は、マルシェなどのイベント ここに来る理由は、イベントを楽しむため	商業・観光振興

※複数の機能の共存の可能性を探る。

2. 旧高田公民館跡地についての方針は、

1	全天候型、シャワーを備えた健康運動施設(高齢者の軽運動も) ここに来る理由は、ひとりでも、仲間と一緒にでも、健康増進のため	健康増進
2	災害時移動できるコンテナハウス、トレーラーハウスでつくる バザールのようなカフェや直売所、ファーマーズマーケット ここに来る理由は、美味しいものを食べたり、楽しい時間を過ごすため	商業振興
3	チャレンジショップやチェーン店による飲食店街 ここに来る理由は、美味しいものを食べたり、楽しい時間を過ごすため	商業振興
4	マルシェができる全天候型のイベント広場。平時は遊具を備えた 子どもの遊び場として開放し、トイレ駐車場完備 ここに来る理由は、イベントを楽しみ、家族でたのしい時間を過ごすため	観光振興

※複数の機能の共存の可能性を探る。

必要なサブ機能として、

駐車しやすい駐車場、近い駐車場

きれいなトイレ（ベビー、高齢者、障がい者、オストメイト対応）

新聞雑誌、SNSによるタイムリーで継続的な情報発信

冷房、暖房など快適な空間

高齢者、障がい者、幼児などに配慮したバリアフリー施設